

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月11日

【評価実施概要】

事業所番号	3071201325		
法人名	株式会社メディカル・ギア・エキップメント		
事業所名	グループホーム自然の郷		
所在地	紀の川市桃山町最上1206-7 (電話) 0736-66-1227		
評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山市手平2丁目1-2		
訪問調査日	平成20年8月22日	評価確定日	平成20年9月11日

【情報提供票より】(20年7月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年8月3日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	12人, 非常勤 3人, 常勤換算 9.1人

(2) 建物概要

建物構造	平屋木造造り		
	1階建て	1階	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 200 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(7月30日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	5 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	77 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	しまだ内科クリニック ・ たかぎ歯科クリニック
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然環境と展望に恵まれた高台に位置し、周辺には桃畑などが眺められる。建物は木造建築で、建物周辺の畑で花や野菜を植え、作物を食材などに供している。ホーム内では、職員は利用者とのコミュニケーションを重視したケアを行っており、多忙にもかかわらず利用者におだやかな態度で接している。また家族には利用者の健康状態や介護の状況等を詳細に報告している。レクリエーション活動が活発で、歌をうたいながら手足を動かしたり、カラオケ、トランプ、カルタの手づくりや塗り絵など多様な趣味活動を支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価のうち、運営理念の職員間の共有、利用者のペースの尊重、継続的な研修の受講、相談・苦情受付の明示については改善が図られている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は、評価項目表を各職員に配り、取り組みの内容を各自が記載して意見交換をし、管理者が取りまとめた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では、利用者の介護度の推移や事故・ヒヤリハット事例、利用者満足度の調査等を議題とし、構成メンバー間で意見交換して助言してもらい、サービス改善に活かしている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>玄関の入り口に、苦情があれば受け付けますと担当者名を書いて掲示し、また家族が面会に訪れたときは何でも気軽に話せる雰囲気づくりに努めているが苦情等は出されていない。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の敬老会に参加し、隣接特定の住民と戸外等で交流しているが、日常的に地元の人々との連携があるとはいえない。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人個人個人のリズムをもって暮らし、自分では自分で、笑いと楽しみのある健やかな生活をしていただくという趣旨の事業者独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を職員の目につくところに掲げ、毎月の職員会議で確認し、日々のサービスの中で念頭に置いて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の敬老会等に参加し、隣接する特定の住民とは外に出て一緒に日光浴をしながら話したり、ホームでの三味線の会に呼んだりしているが、地元の人々と交流しているとはいえない。	○	一般の民家と離れ立地上難しいかもしれないが、地域の幼稚園や小学校等の行事に参加したり、ホーム内へ招いての交流を行う等、敬老会以外にも地域の行事への参加等の検討を期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員会議で評価の意義を話している。今回の自己評価は、評価項目表を各職員に配り、取り組みの内容を各自が記載して意見交換し、管理者がとりまとめた。前回の外部評価結果については、可能な限り改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に一度開催し、利用者の介護度等の近況や事故・ヒヤリハット事例、利用者アンケートに関する取り組み等を報告し、構成メンバーで意見交換し、また助言してもらい、サービス改善に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは電話や直接伺う等して、勤務体制や、運営・サービスに関する自己点検表等について質問・相談し、サービスの向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや心身の状況等の報告は、毎月まとめて来訪時家族に渡し、サインをもらっている。また金銭管理についても個人別に収支計算書に記載し、利用者家族のサインをもらい領収書を渡している。職員の異動は家族に口頭で伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関を入った壁面に、苦情があれば受けますと担当者名を記載し掲示しており、また家族が面会に訪れたとき、何でも気軽に話せる雰囲気をつくるよう心がけているが、苦情等は出されていない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	同一法人内やユニット間の職員の異動や離職があったときは、利用者へのダメージを最小限にするため、職員間で引継ぎをするとともに、新しい職員が入ってきた場合は利用者・家族にきちんと紹介し、できるだけ話しかけるようにして、徐々に馴染んでもらうよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の全体会議において職員研修を行い、コミュニケーションの方法、認知症、手洗いの方法、事故発生時の対応等、管理者が受講した外部研修の内容を伝達している。また職員は総合病院で口腔ケア、誤嚥防止等の研修を受けている。新しい職員が入って来たときは、夜勤も最初は先輩と2人で行って順次仕事を学習してもらっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡会の開催する管理者意見交換会や研修会に参加し、ネットワークづくりを行い、ホームのサービス向上の参考になっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が入居するときは、家族から趣味や生活歴を聞き、本人とコミュニケーションを十分とるとともに、馴染みのものを居室へ置いてもらったり、家族が度々訪れ、徐々に職員や他の利用者や場の雰囲気に馴染んでもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	野菜や花の育て方を利用者と一緒に作業することにより教えてもらったり、料理についてのアドバイスをを受けたり、また川柳を教してもらったりして、共に支えあう関係を築くように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で話しをしコミュニケーションを重ねて、何でも話してもらえるような信頼関係を築き、利用者の思いや希望を把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族と話し合って思いや要望を把握し、その人の生活上の問題点について職員全員で意見を交換し、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直すとともに、利用者が入院したり心身の状況等に変化があった場合は、本人・家族の要望を取り入れて検討し見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制や特別な外出や移送サービス、外泊支援等の多機能を活かした支援は行われていない。	○	医療連携体制等の実施の検討を期待する。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望により事業所の協力医のほか、利用前からのかかりつけ医の受診を受けている。また状況に応じて、専門医の受診を受けることもある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が重度化した場合や終末期を迎える場所、また医師・本人・家族・職員等の話し合いや統一したケアの実施等を記載した指針を、家族との契約書の中で取り交わしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを尊重し誇りを傷つけないよう言動に注意している。また記録等の個人情報の取り扱いは漏れないように気をつけ、収納庫に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとして一応の決まりがあるが、朝一人ひとりの体調や気分に合わせて起床したり、食事もその日の希望により部屋へ持ち帰る利用者もある等、利用者のその日のペースや希望に沿って支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節ごとに山菜を取りに行き食材にしたり、建物の周りの畑で作った野菜を食材にしたり、好みの料理を取り入れて、職員と利用者が同じテーブルを囲み楽しく食事ができるような雰囲気づくりを心がけている。また利用者で出来る人は、食事の準備や食器洗いなどの後片づけを手伝ってもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	バイタルチェックにより体調を見て、本人の希望や利用者のタイミングに合わせて入浴してもらっている。また入浴を拒否する人もいるが、その人に合った声かけ、誘導をして入浴してもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜や花づくり、外食、観劇、遠足、夏祭り、各種のレクリエーション等、毎日の生活に張り合いや喜びをもって過ごしてもらえるよう様々な工夫を行っている。また利用者には、食事の準備、朝の掃除、洗濯ものの取り入れ・たたみなどの役割をしてもらっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の買い物や、戸外に出て隣接する住宅の人々と日光浴や雑談をしたり、建物周囲での花や野菜づくりなどを支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が外出し事故を起こすことがないよう玄関には施錠している。居室は日中・夜間を問わず鍵を掛けない。	○	建物周囲に自然を見渡せる木製の通路があり共同室から自由に入出入りして歩くことができるが、ホームの玄関は、利用者の動きに気を配り鍵をかけない、工夫が望まれる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を消防署の協力を得て行っている。ホームから地域の在所へは山間地をはさんでかなりな距離がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	センター方式の様式を活用し食事や水分の摂取状況を記録し、職員は情報を共有し不足のないよう一人ひとりに対応している。食材は緑黄色野菜など野菜を多めにし、肉や魚は昼と夜の食事で調節し、栄養摂取状況を調べるため年2回血液検査をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物が一部天井が高い木造で光を柔らかく捉える構造になっている。玄関にはひまわりの手芸品や色紙でつくった朝顔の鉢、頭上に夏向きに帆船や椰子の木の絵の飾りつけを行い、共同室には行事の写真などを飾り、居心地よく過ごせるようにしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談して、部屋によっては小さな仏壇を置いて写真を掲げたり、なじみのダンスやテレビを置いたり、手芸品等を飾ったりして、本人が安心できる住まいとなるよう工夫している。		